

2025年3月期中間期 決算説明会



株式会社カーリット

CODE : 4275

目次

- 2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算概要

財務部担当 取締役兼執行役員 岡本 英夫

- 2025年3月期 通期計画について

経営企画部担当 取締役兼執行役員 小川 文生

- 中期経営計画「Challenge2024」の達成に向けて

代表取締役兼社長執行役員 金子 洋文

2025年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

中間期 決算概要 < 連結経営成績 >

(単位：百万円)	2024年3月期中間期 実績	2025年3月期中間期 実績	差異	増減率
売上高	17,672	18,045	+372	+2.1%
売上原価	13,123	13,668	+544	+4.2%
販売費および一般管理費	3,164	3,182	+17	+0.5%
営業利益	1,384	1,194	▲189	▲13.7%
経常利益	1,564	1,382	▲182	▲11.6%
純利益	1,173	951	▲221	▲18.9%
期末配当予想 (円/株)	33	36	+3	+9.1%

特別利益 固定資産売却益 31
特別損失 固定資産除却損 24

中間期 決算概要 <セグメント別実績>

	売上高			営業利益		
	2024年3月期 中間期 実績	2025年3月期 中間期 実績	差 異	2024年3月期 中間期 実績	2025年3月期 中間期 実績	差 異
(単位：百万円)						
化学品	9,936	10,575	+639	790	801	+11
ボトリング	2,463	2,272	▲191	119	6	▲113
金属加工	3,678	3,603	▲75	276	219	▲57
エンジニアリング サービス	1,866	1,908	+42	309	285	▲24
報告事業部門計	17,944	18,361	+417	1,495	1,313	▲182
連結合計	17,762	18,045	+373	1,384	1,194	▲190

決算概要 <利益の増減要因 ①>

【化学品セグメント ①】

化薬分野	
産業用爆薬	↗ 石灰砕石需要の減少により減収。適正価格反映により増益
自動車用緊急保安炎筒	↘ 一部自動車メーカーの型式認証問題の影響により減収減益
高速道路用信号焰管	→ 需要に大きな変化なく堅調に推移。増収、利益は横ばい
煙火関連	↗ 花火大会の増加等により需要が増え、増収増益
宇宙産業	- 固体推進薬開発を進行中。 10月から研究開発体制を刷新し、赤城研究所にて研究開発を実施。
受託評価分野	
	↘ 電池開発の活況継続により電池試験は増収。 危険性評価試験は試験体の搬入遅れ等の影響により、減収減益

決算概要 <利益の増減要因 ②>

【化学品セグメント ②】

化成品分野

塩素酸ナトリウム	↗ 紙パルプ漂白用途の需要に対して安定した供給を進め、増収増益
過塩素酸アンモニウム	→ 需要に大きな変化なく堅調に推移。売上、利益ともに横ばい
電極	↗ 塩素発生系電極の交換需要が好調に推移し、増収増益
過塩素酸	↘ 国内主要ユーザーの生産調整および海外需要の低迷により、減収減益

電子材料分野

↗	電子材料、機能材料ともに国内外の生産調整が終了し需要が回復。加えて環境車やAIサーバー等の付随部品向け需要が増加し、増収増益
---	--

セラミック材料分野

↗	国内砥石・研磨布紙メーカーの需要低迷が続くも、適正価格維持と高付加価値商品の販売推進により、増収増益
---	--

シリコンウェーハ分野

↘	顧客の在庫過多や生産調整が続いており、減収減益。 小口径ウェーハ市場の新規開拓とシェア拡大、既存製品群の生産性向上に引き続き注力
---	---

決算概要 <利益の増減要因 ③>

【ボトリングセグメント】

ペットボトル・缶飲料

↘ 需要は前年並みに推移するも、定期修繕後の設備復旧の遅れ等により生産数量が減少。当期間で挽回を図るも生産数が伸び切らず、減収減益

【金属加工セグメント】

耐熱炉内用金物

→ 主要品目の販売が好調に推移し、増収。製造コスト上昇による影響を受けたものの、適正価格交渉の推進により利益は横ばい

各種金属スプリング・プレス品

↘ 主要取引先(建設機械・自動車)の需要落ち込みにより減収減益。生産性向上、適正価格維持等の活動を継続していく

【エンジニアリングサービスセグメント】

建築・設備工事

↗ 設備工事数の増加に伴い、増収増益

塗料販売・塗装工事

→ 市場環境は堅調。販売品目の構成変化に伴い、増収、利益は横ばい

構造設計

↘ 公共案件の獲得好調により増収。民間案件の競争環境激化にともない減益

2025年3月期 通期計画について

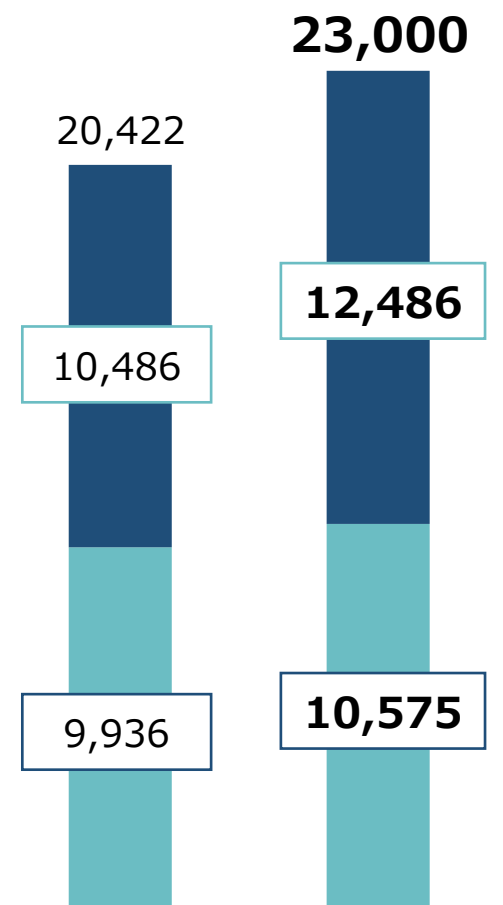
通期計画

< 連結・事業部門別 >

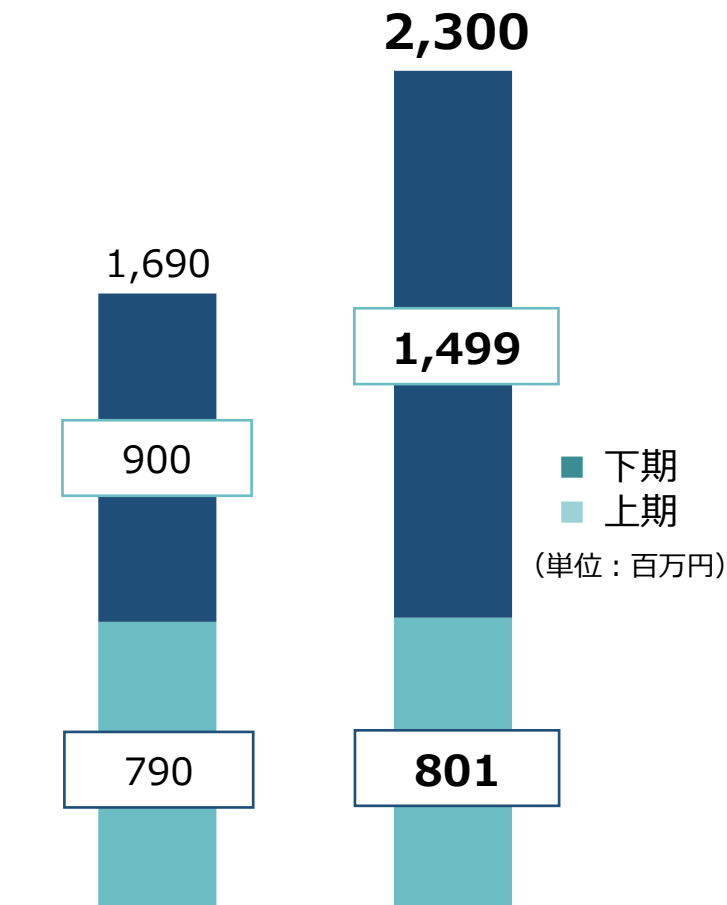
(単位：百万円)	売上高			営業利益		
	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	差異	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	差異
化学品	20,422	23,000	+2,577	1,690	2,300	+609
ボトリング	5,150	4,700	▲450	609	600	▲9
金属加工	7,304	7,200	▲104	461	500	+38
エンジニアリング サービス	4,346	5,500	+1,153	818	800	▲18
報告事業部門計	37,223	40,400	+3,176	3,579	4,200	+620
連結合計	36,577	38,000	+1,422	3,352	3,800	+447

通期計画 < 化学品セグメント >

【売上高】



【営業利益】



■ 下期
■ 上期
(単位：百万円)

- ◆ **化薬分野** (発炎筒類、爆薬、煙火等)
受託評価分野 (危険性評価試験、電池試験)
 第3四半期以降は回復傾向。挽回を計画
- ◆ **化成品分野** (塩素酸ナトリウム、過塩素酸アンモニウム等)
セラミック材料分野 (研削砥粒等)
 上期同様に堅調推移。利益の地盤を固める
- ◆ **電子材料分野** (導電性高分子、イオン液体等)
 上期同様にEVやAIサーバーの付随部品向け需要の増加が継続
 今期の成長キードライバーとして営業活動を推進する
- ◆ **シリコンウェーハ分野** (小口径シリコンウェーハ)
 今下期での需要回復を想定するも、時期が遅れている状況
 リスク回避として他事業分野によるリカバリーも視野

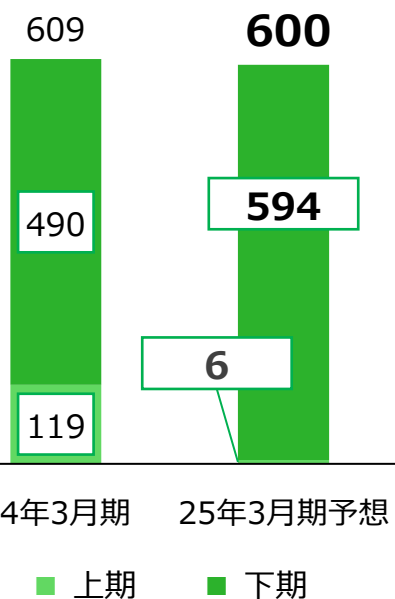
2024年3月期 2025年3月期予想

2024年3月期 2025年3月期予想

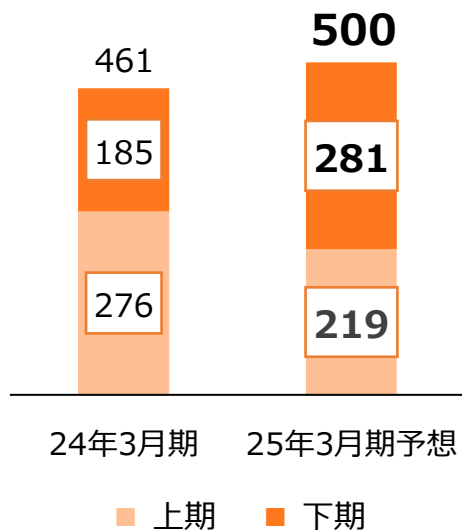
通期計画

< 基盤領域セグメント 営業利益 >

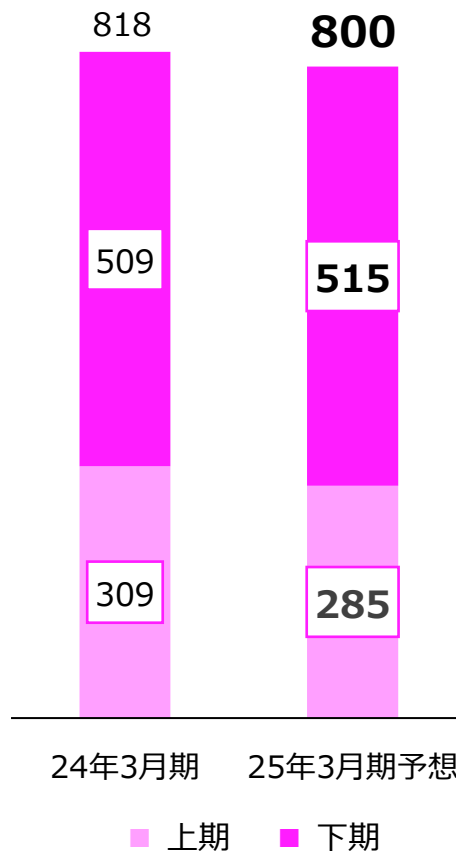
【ボトリングSeg】



【金属加工Seg】



【エンジニアリングS Seg】



◆ ボトリングセグメント

上期の生産数量減の影響解消を目指し、
下期も安定した生産を進めることで挽回を推進

◆ 金属加工セグメント

建設機械市場の需要環境が厳しい状況。耐熱炉内
用金物の販売強化を進める。
生産性向上と適正価格への取り組みが徐々に結実

◆ エンジニアリングサービスセグメント

塗装・塗料分野は建設機械市場の影響を受け、
厳しい環境。
建設分野や設計分野は公共・民間ともに積極的な
案件獲得を継続

(単位：百万円)

中期経営計画「Challenge2024」の達成に向けて

中期経営計画 Challenge 2024



経営環境の振り返り：環境変化

◆ 2024年度上半期における環境変化

社会・経済環境

- ✓ ウクライナ侵攻や中東紛争の長期化、米国大統領選挙
- ✓ 物価全体の上昇や2024年問題に起因する、人件費や運送コストの高騰
- ✓ 自動車やAIサーバーの開発に伴う電子材料需要の回復・高まり
- ✓ 小口径シリコンウェーハの市場回復時期の不透明感

上場企業に対する要請

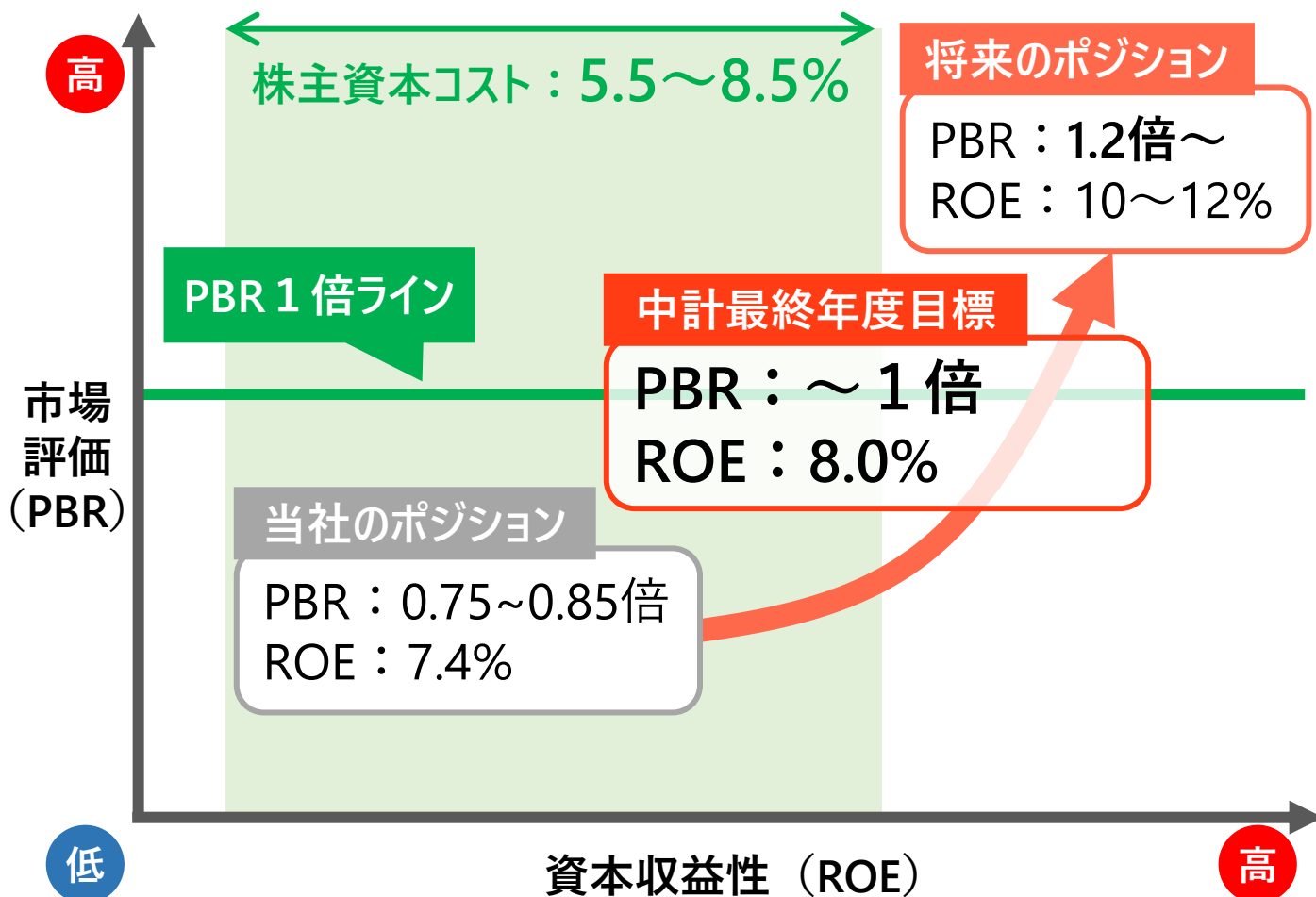
- ✓ PBR向上を目的とした、資本収益性や市場評価の改善要請

◆ 2024年度上半期における当社の状況

- 売上高は昨年比増。計画達成
見込んでいた電子材料需要の回復や適正価格交渉の効果が顕在化
- 利益は昨年比減。計画未達。**資本収益性の改善についても計画途上**
- 三社統合を実行し、注力・育成領域事業を有する事業持株会社へ

中期経営計画「Challenge2024」最終年度について

◆ 中期経営計画「Challenge2024」を骨子に、「ローリングプラン2023」、「グローアッププラン2024」を実行中



ROE = 利益創出の効率性

- 当中間期は営業利益率低下。挽回計画進行中
- 日本カーリット、シリコンテクノロジーとの三社統合を実行。一時的なコスト増は今後圧縮の見通し、管理コスト削減や成長投資を加速させる
- 政策保有株式の売却の検討進行

PER = 利益成長の期待度

- 過塩素酸アンモニウム生産ラインの増強工事について進捗開示。その他投資も検討進行
- 三社統合を機に研究開発体制を刷新・強化
- 次期中期経営計画(2025~2027)策定中
2025年春に開示予定

中期経営計画「Challenge2024」5つの戦略

- ◆ 「事業ポートフォリオ経営の最適化により企業価値の向上を目指す」をテーマに、業績とESGに関わる5つの戦略を設定
- ◆ 2022年度～2024年度の3年間にわたり、取り組みを実行

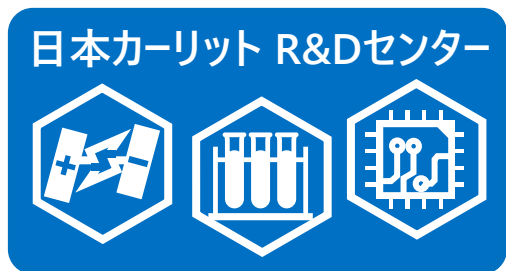


① 成長事業の加速化

過塩素酸アンモニウムの増産計画に着手 (H3ロケット等 固体ロケットブースタの固体推進薬の主原料)



② 研究開発の拡充



三社統合

株式会社カーリット

- 群馬研究所: 電極事業、電子材料事業の研究開発
- 赤城研究所: 固体推進薬事業の研究開発
- 長野研究所: 半導体・光材料事業の研究開発

事業ポートフォリオ経営に沿った3研究所体制へ変更

中期経営計画「Challenge2024」5つの戦略

◆ 営業CF・資産売却等の原資を、投資と株主還元を戦略的に配分し、収益性と成長期待の向上を目指す

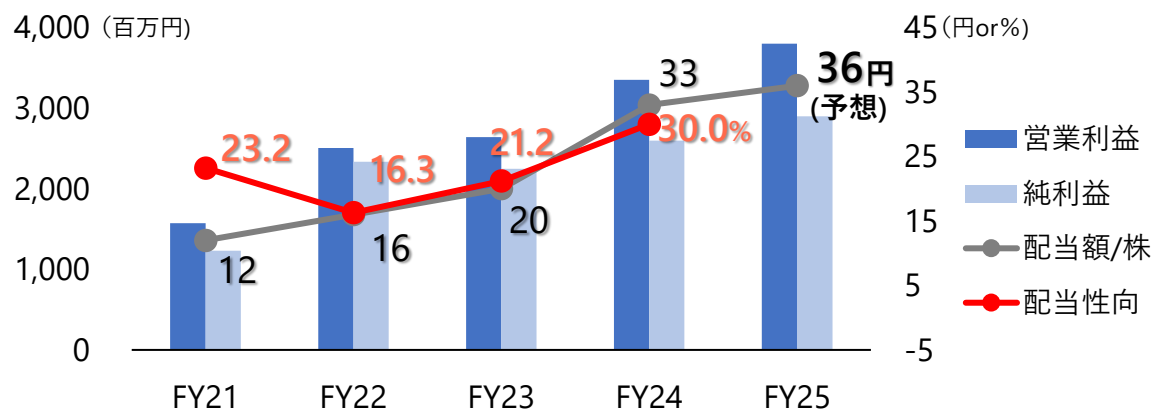


③ 既存事業の収益性改善 成長事業の加速化

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
売上高	338億円	360億円 (+6.2%)	365億円 (+1.6%)	380億円 (+3.9%)
営業利益	25億円	26億円 (+5.3%)	33億円 (+27%)	38億円 (+13%)

- 既存事業全体において適正価格反映の取り組み
- 一部低収益の事業、製品からは撤退
- 注力領域は市場影響により減速、成長領域は順調に需要増

④ 事業インフラの再構築 グローアッププラン2024

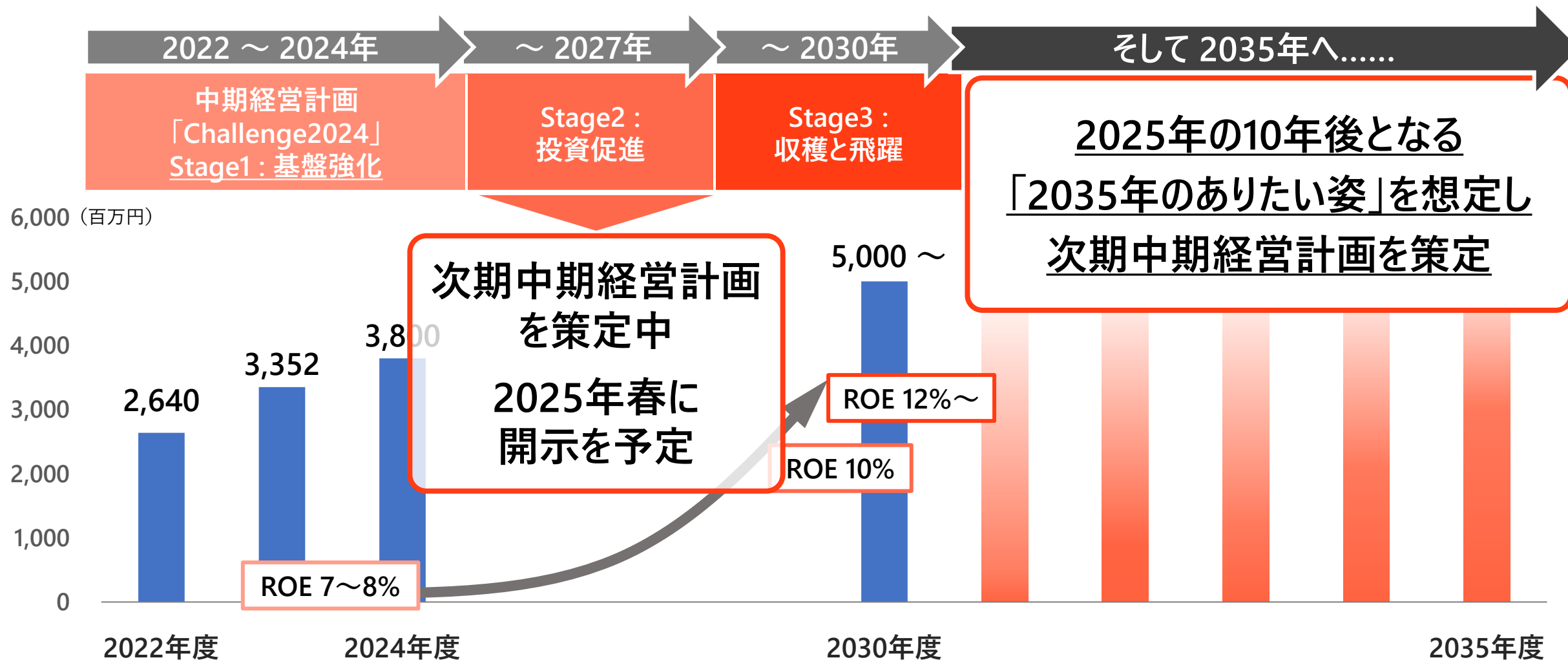


- 成長投資に取り組むとともに、総還元性向[※]を30%として利益還元を努める

$$\text{※総還元性向} = (\text{配当支払総額} + \text{自社株買い総額}) / \text{当期純利益}$$
- 資本コストなどの指標を総合的かつ中長期的に勘案し、政策保有株の縮減を継続的に進める。現在も検討中。

2030年、そして2035年に向けたロードマップ

◆ 次期中期経営計画(2025~2027)策定にあわせ、ロードマップを更新



IRに関するお問合せ先

株式会社カーリット

経営企画部 広報・IR推進室

メール : pr@carlit.co.jp

信 頼 と 限 り な き 挑 戦



株式会社カーリット

無 限 の 可 能 性 を カ タ チ に